

7月 菊池高校 人権だより

[発行日]2026年7月15日

文責 人権教育主任 寺尾寛紀



梅雨が明け、酷暑の夏が来ました。

こんにちは！7月になりました。梅雨が明け、毎日暑い日が続いています。くれぐれも体調には気をつけてください。あと4日もすれば夏休みです。3年生は勝負の夏になります。暑さに負けず、自分の目標に向けて一步一步進んでいきましょう。

7月1日、求人票の受付が始まります

7月1日、求人票の受付が始まりました。就職希望の3年生はいよいよ自分の将来を決める大事な大事な夏がやってきました。希望先を決定したら、履歴書書きと面接練習。就職試験にむけてやるのがたくさんありますね。1年生2年生も来年、再来年には取り組まなくてはならないことです。準備は早いにこしたことはありません。早めの準備をお願いします。

さて、就職に関しては大きく変わった点があります。履歴書の性別を記入する欄がなくなりました。これは、なぜかわかりますか？

これは、性別によって採用されるか採用されないかが決まらないようにという配慮になります。男性が向く仕事、女性が向く仕事あるかもしれませんが、そもそも男女で差別されることは許されないのです。現在性的マイノリティは3%くらいいるそうです。男だから、女だからという決めつけが行われないようにするという配慮が必要です。いざ自分が仕事を決めるときに、男だからダメ、女だから無理。と決めつけられたらどう思いますか？このように、自分ではどうしようもないことで就職の採用が決められることがないようにしていかななくてはなりません。

就職活動では、自分ではどうしようもないことで採用するかしないかが決められないように、

「言わない・書かない・提出しない」の取り組みが学校で行われています。進学の人もいずれは就職するのでこの取り組みについては、遅かれ早かれとても大事なことです。菊池高校では5月と6月のLHRで担任からお話があったはずですが、

しかし、現実としてはまだ企業からの問題事例が発生しており、昨年は菊池高校でも3件の問題事例が発生しました。その中で「なぜあなたは進学ではなく就職をしようと思ったのですか？」という質問がありました。この質問のどこが問題なのでしょう？

これは、各家庭の事情によるものです。これも本人の力ではどうしようもないことです。また就職してからの能力とは全く関係のないことです。また家庭の事情ですから、答えることもその人への負担になりかねません。そして実際に自分にそのような質問があったときに、「その質問は差別につながるものであり、学校の指導によりお答えできません。」と答えることができるようになって欲しいのです。答えることができるようになるには、差別に気づくことができるようになるのはもちろんのこと、差別を許さない心を持っておかなくてはなりません。だから、学び続けることが大事なのです。



6月水俣病についての講演の感想より

○出身が水俣というだけで、結婚を取り消されたり、「水俣病？」と聞かれたりすることを知り、いけないことだと感じた。

○水俣病のことを深く知ることができ、よかったです。水俣病であるということにかかわらず、差別をしないようにしたい。